

「防災についての気付集」 第20回千代田町防災訓練 訓練後アンケート結果

5 今回の訓練で防災について改めて気付いたことはありますか。

○コロナ禍でも災害は起こることの認識・継続的な取り組みの重要性。

○初動の大切さ。準備の大切さ。実災害では、職員の参集率が大幅に遅れることが見込まれるため、少ない人数でも対応できる備えが必要だと感じた。大地震の場合は、前ぶれもなく発災するため、いかに早く本部及び避難所を設置できるかが肝になると感じた。

○家庭内でまだまだ、防災について考えが足りないことに気付いた。

○身の安全を守ることでできる場所の確保には、それに伴う家具の転倒防止や電化製品等の落下防止対策を日頃から準備しておく必要があると思いました。

○日頃から災害を想定した訓練は必要と思いました。また、自分は消防団活動のため家族とは一緒に居られませんでした。家族での参加はとても大切だと思いました。

○いざ災害が起きて、避難行動が起こせるか不安になった。

○今回のような簡単な訓練でも日常を見直し、改めて確認する事が出来る。季節によっても準備する物が異なる等。

○避難道具は玄関の近くに置いておく。とにかく先に高齢者を避難させる。

○日頃から防災の意識を持って対策を行うことで、いざという時に対応できるような気がした。

○コロナ禍の中で、避難所以外への分散避難が重要と感じた。

○家庭内備蓄品などの確認。家具の転倒防止等、普段気を使わない事にもあらためて考えをめぐらすことが出来た。

○家族に地震から身を守る行動を一斉に実施することを呼びかけられ、家族自ら身の安全を守る行動を取ることによって、地震防災の必要性を改めて認識でき、家庭での防災対策を確認するきっかけとなりました。

○地震の発生を想定し、それぞれの場所において地震から身を守る行動の確認を行うことにより、家族それぞれが防災意識を高め、普段の生活場所での防災対策の確認が出来たと思います。

○家族は初めての訓練でしたので戸惑いもありましたが、それぞれの場所で適切に行動してくれたのでとても有意義な訓練でした。

○訓練を継続して実施することで家族にとって防災に関する意識が高まったと思う。また、訓練がスムーズに行うことが出来たので、引き続き安全な行動がとれるよう学習していきたい。

○訓練を通じて家族同士のコミュニケーションのあり方や日頃からの連携の重要性に気付いた。

○知識や行動について正しく理解するうえで貴重な体験を経験できたと考えます。また、このように一斉で行うことも連帯感を意識できた良い取り組みの訓練であったとも思います。

○自宅でこのような訓練をしたことがなかったが、今回、いざという時の連絡方法、防災関係の物品確認、備蓄飲料、消火器の位置確認、備蓄品の在庫数や期限等のチェックなど、改めて見直す良い機会になり再確認できました。

○家での緊急連絡網が実際に活用できて安心感につながった。

○普段からあまり気にせずキャビネットの上などに物品を置いているが、地震により落ちてくることや家具の転倒防止策等も家族一同再認識できた。

○訓練と違って突然やってくる自然災害の際、家族が外出中どのように家族に情報を伝えるか問題点が浮き彫りになった。

○災害時、携帯電話はつながりにくくなるのが想定されるので、どのような方法でより早く安否確認を行うのかという課題があることがわかった。

○今回は訓練であったが、災害時にどのような行動を取るのかを家族で事前に確認しておくことが必要であると感じた。定期的にこのような訓練をすることは、防災に対するきっかけや気付きとなるので、今後も参加したいと思います。

○備蓄の水にも消費期限があった。

○食品の消費期限があったので、1年に1回は確認する必要がある。

○災害に備え、日々の確認と訓練が大切だと改めて感じました。

○これまで持ち出し品等の確認など特に行っていなかったが、今回の訓練で、持出品

袋の確認が出来た。

- 浸水想定区域外への避難をもっと周知したほうが良いと感じました。
- 自宅の中で身を守る（身を隠す）場所がない。（自宅に）備蓄品の確保が少ない。
- 災害時に落ち着いた行動ができるようにするには、定期的な訓練が大切だと思いました。備蓄品も定期的に確認をしようと思いました。
- いざ避難するとなると焦ってしまうので、日頃からの準備が必要だと感じた。
- 突発的に発生する地震について、冷静な判断が重要であり日頃の備え（備蓄品等）について再確認ができました。
- 備蓄品の確認で期限切れ又、不足品等不備があり、再確認できました。
- 災害はいつ起きるかわからない時代となり、災害に対してどう対応できるかです。命を守るためには、とても大切なことであると感じた。
- 再度実施の広報があり、忘れずに参加できた。早めの通知と事前の通知の二段構えを今後もお願いしたい。言葉は横文字ではなく日本語にしてほしい。高齢者には馴染まない。
- テーブルの下に家族全員（4人）が避難するには狭いことが分かった。リビングにあるピアノや机の上に物がたくさん置いてあるので、大きな地震の時は全て落ちてくると思うと片付けておく必要があると感じた。
- 避難所までの交通手段の確保。（車が使用できない場合）
- 備蓄品が消費期限切れとなっていたことに気付けた。
- 自宅に非常用飲料水は備蓄しているが、食料の備蓄をあまりしていないので検討しようと思う。
- 日頃から定期的に意識をしながら、防災に対する心構えをもつことが、必要であることを再認識しました。
- 前回の東北地震のような揺れと、直下型の揺れとでは対応の仕方も違ってくると感じた。置かれた場所や状況でも変わってくると思うので日頃からの想定訓練が大切だろうと思った。
- 今回はコロナ禍という中での開催であったので、シェイクアウト訓練以外は、職員

のみの訓練ということになりましたが、改めて職員の現場活動における訓練の重要性ということを再認識するとともに、このタイミングで訓練ができたことをとても良かったなと思いました。

○場所によっては物が落下する危険のある箇所がいくつかありました。落下する危険があるところに置いてある物を安全な場所に移し物を置かないように対策しました。

○放送がよく聞こえたので、落ち着いて行動出来ました。実際は今回のように出来るか不安なので家族でよく話し合い、準備をしておこうと思いました。

○食べ物について考えた。

○災害については他人事でしたが、令和元年10月の台風19号を機に自分のところでも起こると実感しました。正しい防災情報や早期避難を心がけていきたいです。

○家庭内の危険個所の確認する事が出来ました。

○家具等の転倒防止処置。屋内から屋外への安全な移動経路の確保。

○突然の災害に対し、準備しておくことが、大事だと感じた。日頃より、災害に対し情報収集に気配りしたいと思いました。

○何も準備が出来ていなかったということ。

○職場でも頭を守る為の避難場所を改めて意識しないと動けないことが分かった。

○締め切った室内だと放送が聞こえづらい。

○1階で93歳の母といっしょに行った。姿勢を低くし、頭を守るのは出来たのですが、テーブルの下で動かずまでは出来なかった。

○高齢者の人や介護を必要とする人には、地震はかなりむずかしいのがわかった。自分の命を守る行動を！

○落ち着いて行動しなくてはいけない事。普段から何処へ逃げるのが我が家ではベストなのか。飼っている犬の事など色々と気付かされました。

○普段から避難場所、方法などを家族で確認しておこうと思います。

○自宅内でどこが危険でどこが安全なのかを考える機会となりました。

○定期的に備蓄品（主に食料品）の消費（消耗）期限の確認をしておかなければならないこと。

災害時に必要なもの（備品類）を確保しておくこと。

- 屋内でも危険な場所が数多くあると気付いた。
- 改めて家族での話し合いが出来た。（避難場所など）
- 広域での避難を考える必要に気付いた。
- 自宅に身をおく場所が思いの外ない。
- テーブルがガラス戸のそばにある為、その下に入るのは危険だと感じた。
- 家庭内の備蓄品に足りない物があったり、期限が切れている物について確認が出来ました。訓練がなければ気付くことができなかつた部分だと思うのでこの機会に確認出来て良かったです。